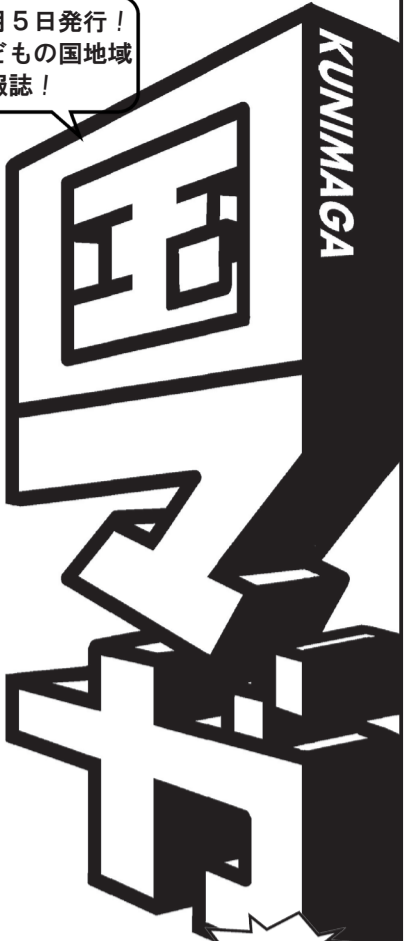


特集「こどもの国に出現！巨大クリスマスリースの謎を追え！」

毎月5日発行！
こどもの国地域
情報誌！



KUNIMAGA

Vol.21
2014年12月号

¥0

クリスマスのごももの国で何が起きているのか！

みなさんはクリスマスシーズンになると、ごももの国に巨大リースが出現するのをご存知だろうか。ごももの国を訪れたことがある人ならばわかると思うが、園内には山ほどの木がある。しかしなぜか「巨大クリスマスツリー」ではなく、「巨大クリスマスリース」が出現するのだ。なにか大きな力の存在を感じずにはいられない。われわれ国マガクルは早速、ごももの国へと向かった。

雨上がりのごももの国は人影もまばらである。正面入口から園内に足を踏み入れると早速緑色の巨大リースがその姿を現した。国マガクルに緊張が走る。確かにその姿はリースである。しかし、装飾はいたってシンプルで、頂点のリボンとベルのみ。リースの輪っかには靴下やサンタクロスなどの定番の飾りは見られない。「モ〇バーガーのオニオンリングみたいですね」。呟いたひとりのメンバーの口を、皆が一斉にふさいだ。

巨大生物のような印象さえ受けるこの緑色のオニオンリングは、中央で記念撮影ができるようになっていた。読者の情報によると、よくカップルや家族連れが写真を撮っているそうだ。試しにわれわれ国マガクルも中央のお立ち台に乗り、写真を撮ってみることにした。リースの輪の中で居心地が悪そうに並ぶわれわれの写真を見て、アラサーのおっさんが集まって何をやっているのだろうという画に、戦慄を覚えずにはいられなかった。我々は、巨大リースの謎にさらに迫るべく、ごももの国の事務局に問い合わせることにした。リースは、どのようにしてあの場所に現れるのだろうか。

「生木の杉を使って業者が制作し、クレーンで陸橋に固定しています。天然の木なので日ごとに色が変わっていきますよ。だから毎年新しいものを作っています」。なんと、リースは天然の素材で作られ、毎年新しく生まれ変わる、限りなく自然の生き物に近い存在だったのだ。確かに近づくにつれ豊かな木の香りが！ 過剰な装飾品はいらない、自然の恵みこそが最高の美なのだ。そんなリースの音が聞こえてくるようだ。最後に、衝撃的なひと言が。

「クリスマスシーズンが終わると、同じ場所にジャンボ餅が設置されますよ」

われわれの知らないことが世界にはまだまだある。まず、クリスマスのごももの国を訪れて、その片鱗に触れてみてはいかがだろうか？



DATA
【出現期間】
11月29日(土)
〜12月23日(祝)
【場所】
ごももの国園内正面陸橋下

クリスマス考 クリスマスはハロウィンの先輩だ
ハロウィンの渋谷は、ものすごい人だかりだった。そんなことを知らずに映画を観に行ったら、うっかり巻き込まれてしまった。賢明なる読者はテレビでご覧になり、知っていると思うが、冗談抜きに街全体が、朝の田園都市線か、ごももの国閉園直後の国線のような状態。仮装をしたただただ道端にたむろする人の間を縫って歩くのはひと苦労で、結局、映画の冒頭5分ぐらいを見逃してしまった。ああハロウィン憎し。いったい、いつの間にこんなメジャーになったんだハロウィンよ。ハロウィンと聞いたら、中学の数学の教師が好きだったヘビメタバンドぐらゐの認識だったぞ(その教師は、ガンダムについても熱弁をふるっていた。先生、あなたが晩婚だったのも今は何となく分かる気がします)。

いや、ハロウィンにディズニーランドへ仮装をしに行く人間がいることは、ウワサで知っていた。そんなことは夢の国の話だと決め込んでいたが、どうやら、ディズニーランドから、キラキラとした夢成分が、現実へちよつと漏れ始めているんだな、きつと。こうなったら、国民を「キャスト」と呼ぶってのはどうだろうか。

うか。「キャスト年金基金」とか、「キャスト健康保険」に言い換えれば、若者もきつと色々払うぞ。ははは。しかし、ハロウィンの翌朝、夜通し遊んだと思われるギャルが、ゾンビミたいな顔色をしていたのは本当に笑った。んで、その彼氏っぽいやつがフードを被っていて、ねずみ男に見えた。

コラム 育ち 引込線



あれほどの人の多さを間近で見ると、新しいイベントの誕生を目撃したように思えてくる。あと数年も経てば、見事に商業化され、過ごした方のルールやスタイルが固まっていくだろう。その時、渋谷に集結したあんなのわかない熱気を懐かしく思うのだろうか。もうじきにやってくるクリスマスは、イベントの成り立ち的に、ハロウィンの先輩にあ

パパ これなあに？
リースだよ
リースってなあに？
クリスマスに飾るんだよ
ふーん
ねえパパ ん？
ママ、どこ行っちゃったんだろうね
えっ？
結婚式だよ、言ったでしょ
結婚式にリースある？
季節的にあるかもなあ
ママが帰ってくるようにリース買ってくかあ
ママ帰ってこないの？
お家にリース帰って来るとかなあ
帰って来なくても帰ってきて欲しいなあ…

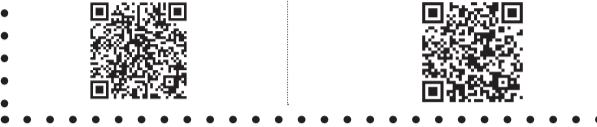
加藤シュンスケ

いこう！ 国マガのある店！ 番外編
 続きはウェブで！ 町田経済新聞。
 Byオオキ

町田経済新聞



国マガ取材記事はこちらから！ <http://machida.keizai.biz/>



◆国マガに取材が
 なんとわれわれ国マガ、地域情報サイト「町田経済新聞」(以下町経)の取材を受けました！今回は町経の紹介と取材時のエピソードをあわせてお届けします。

◆取材風景
 取材の当日、まずは町田経済新聞編集長の宮本さんをこどもの国駅前でお迎えし、挨拶もほどほどに写真撮影をすることに。国マガメンバーが並んで駅をバックにパシャリ。うむ、なかなかいい表情。しかし、ネットに自分たちの顔が出るのは少々気恥ずかしいですね(笑)。その後、場所を移してインタビューが始まりました。世間話を交えつつ、国マガの内容や、そもそも国マガを始めた理由、地元への想い、今後の抱負をメンバー各々話させてもらいました。

◆地域メディア
 本業の都市計画のかたわら、町経を運営している宮本さん。関わった町の催しが1回きりで終わってしまったら、人の集まらない状況を見て、マスメディアが取り上げないローカルなものにもっと目を向けようと町経を立ち上げたそうです。確かに、いくら有意義で楽しんでもらえる事でも知ってもらわなければ意味がありませんよね。規模は小さくとも同じ地域メディアとして、国マガも読者のみなさんに地元情報を発信していきます！



制作しているのは、地元の小学校を卒業した「ひきこもり教育者」20代後半のメンバー。イラストレーターやデザイナーも在籍している。

短編小説
 二の母の記憶 安原マヒロ

暮れの酒
 幼い頃はこの季節が好きだった。クリスマスがやってくるし、冬休みがやってくるし、正月がやってくる。町の雰囲気も、テレビの番組も、食卓の料理も、いつもと違った表情に彩られる。しかしながら三十を超えた独身男としては、そんな非日常もなんだか煩わしい。むしろ、毎週末を楽しく平日の五日間を無難にやり過ごす方が随分楽なのだ。なにより、寒さがこたえる。目の前を行く女子高生の生足が、別世界の生き物に見える。俺には数少ない楽しみがある。駅前の居酒屋で一杯引っかけたことだ。のれんをくぐると、いつものおぼちゃん「いらっしやい！」が響く。店内はそれなりに混んでいた。案内された席の隣では、五十代くらいのつなぎの男が酒を飲んでた。彼の前にはもずく酢に寒ブリの刺身、そして熱燗。実に魅力的な組み合わせだった。「寒ブリの刺身と八海山、燗つけて」。俺は女将に声をかける。つなぎの男が軽くこちらを見てにやりと笑い、口を開いた。「寒いねえ、仕事終わるか？」俺は答える。「ええ、まさに。外仕事の方ですか？ 今日寒かったんじゃない？」「ああ、寒かったねえ。ま、そんな難しい現場じゃなかったけど」俺の目の前に熱燗が置かれた。男に向かつて軽く持ち上げたあと、喉にゆっくり流し込む。喉をゆっくりと焦がしていく。「どんな仕事をされているんです？」「設置屋だよ。イベントで使う舞台とか装飾とか、そういうのをクレーン使って作るのよ。今日はでけえリースを作った。陸橋に固定したんだ」

「クリスマス飾りですか。この時期多いんでしょね」
 「そうさな、一番の稼ぎ時かもな」
 よく脂がのっている寒ブリに舌鼓をうちながら、隣の男の仕事を想像する。随分と気持ちの良い男だ。きつと、町行く恋人や家族連れを喜ばせる装飾を次々に作るという仕事に、やりがいを感じているのだろう。実に清々しい。大学生のカップルに心中悪態をつきながら歩いてきた自分にとっては、ちょっと眩しすぎる。
 「俺の仕事のやりがいってさ……」
 男がまた口を開いた。
 「恋人や家族連れを喜ばせるものを作ることですか？」
 先回りしてそう言った僕の顔を、男は驚いた様子で見つめていたが、ほどなくカッカカと笑い出した。
 「そういう考え方もあるのか。兄ちゃん、見かけによらず純粋なこと言うんだな。俺の仕事のやりがいは、巨大なクレーンを手元のレバーで動かしている実感だよ。三十年以上やってるがよ、この歳になってもまだ上手くなるんだ。昨日よりも少しだけ、確実に、難しい現場をこなせる手になってんの。そんだけ」
 何かに打たれたような顔をしているであろう僕から視線を逸らし、男は「お勘定！」と声を挙げた。熱燗が自分の唇を焼いていくのを感じながら、俺はぐくりと飲み込んだ。

おぎぬまX 4コマ劇場 #7



国マガ年鑑発売中！
 ★去年1年間の『国マガ』の歩み『国マガ年鑑』！『Coonie』『GRIVE』『昭和書房』『スリーエフ・こどもの国店』『MONT』で販売中！

■こどもの国地区
 ・コンビニ「スリーエフ・こどもの国駅前店」
 ・パン「MONT」
 ・カフェ＆ランチ「おぐに」
 ・歯科「こどもの国歯科」
 ・そば「なごみ」
 ・イタリアン＆バー「Bacchus」
 ・コーヒー「GRIVE」
 ・ケーキ＆喫茶「セントポーリア」
 ・焼肉「はち」

■奈良北地区
 ・本・文具「昭和書房」
 ・パン「Coonie」
 ・とんかつ「かつ元」

■青葉台地区
 ・パン「COPPET」
 ・接骨院「あつる鍼灸接骨院」

■田奈地区
 ・不動産「太平プラン」

■町田市
 ・古着「ULTRABO」
 (敬称略・順不同)

国マガを置いていただける店舗を随時募集中
 お店を誌面に紹介お問い合わせは誌面末部のメールアドレスまで！

STAFF

加藤 シュンスケ (代表) 会社員/イラストレーター (@kato_two)
 小学2年生ぐらいでしょうか、クリスマスに望んでいたプレゼントとは違うプレゼントをサンタにもらいました。幼いながらも「やったー！」と気をつかった覚えがあります。サンタに。

サリー 志村 編集者 (@shimamuramasari)
 『町田経済新聞』の記事を読んでもらえましたでしょうか。記事になるのは嬉しいですが、「前」編集長のクセにしゃしゃりできていて、選手兼任監督の「代打、オレ」の感じで、恥ずかしいです。

オオキ 長男 (@OhQute)
 クリスマスの予定はないけれど牡蠣パーティーの予定はあります。生牡蠣、カキフライ、牡蠣鍋、天ぷらもいいなあ。前回は参加者の半数が食当たりしました。さあ、今回はどうなる？

おぎぬまX 元芸人 (@oginuma_x)
 数年前、知り合いの家でクリスマスパーティーがあって呼ばれたのですが…行ってみたら知らない人ばかりで全然喋れず、気まずくなった僕は「星が見たい…」とロマンチックなセリフを言ってベランダに出たまま朝を迎えました…(泣)

安原 マヒロ ウェブ編集/ライター (@MahirOrihaM)
 「イブの予定なし！リア充爆発しろ〜」的なアレ。イブって平日だし、会社は年末進行で忙しい時期だし、暇な学生ならではの発想ですね、今になって考えると。

★誌面広告、スタッフへのお仕事の依頼も受付中！

こどもの国系情報誌「国マガ」Vol. 21
 発行日 2014年12月5日
 編集人 加藤シュンスケ 安原マヒロ
 連絡先 kunimaga920@gmail.com
 Facebookにてバックナンバー配信中！→ <https://www.facebook.com/kunimaga>

Facebook twitter
 Twitter ID @kunimaga920